

# デーヴォ ガイド



2022.7.18-24

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

6:14 不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみに、どんな交わりがあるでしょう。

6:15 キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不信者とに、何のかかわりがあるでしょう。

6:16 神の宮と偶像とに、何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神はこう言われました。「わたしは彼らの間に住み、また歩む。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

6:17 それゆえ、彼らの中から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。汚れたものに触れないようにせよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、

6:18 わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる、と全能の主が言われる。」

7:1 愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの霊肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。

不信者との関係を無警戒・無制限に続けることに対して、パウロは戒めています。ノンクリスチャンと自由に付き合うのは、気ままで楽なことに思えるかもしれませんが、それはむしろ「自分の心で自分を窮屈にしている」のだと、パウロは言います。

神を否定する人々は、真の生きる意味が違いますし、目的も、また価値観も違います。主のみこころとは反対のことをしようとするかもしれませんし、その結果苦難やトラブルを抱えるでしょう。

そのような人々と、境界線もなく混同した状態で付き合うことは、「つい合わぬくびき」だというの

です。それは互いに首を絞める結果になるのです。多くは結婚のことに適用するようですが、パウロはここでは結婚については言及していません。すべてのことに広く適用できる教えです。

私たちは、イエス様が十字架にかかられたほどに愛しておられる世の人々を、心から愛します。また愛するべきです。しかし、神に反してまで彼らと一緒にすることをする必要はありません。一緒に不信仰や滅びに向かって行って、「彼らのことを配慮している」などと言っても意味がないですし、彼らのためにもなりません。

「神を恐れかしこんで聖きを全う」していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:2 私たちに対して心を開いてください。私たちは、だれにも不正をしたことがなく、だれをもそこなったことがなく、だれからも利をむさぼったことはありません。

7:3 責めるためにこう言うものではありません。前にも言ったように、あなたがたは、私たちとともに死に、ともに生きるために、私たちの心のうちにあるのです。

7:4 私のあなたがたに対する信頼は大きいのであって、私はあなたがたを大いに誇りとしています。私は慰めに満たされ、どんな苦しみの中にあっても喜びに満ちあふれています。

7:5 マケドニヤに着いたとき、私たちの身には少しの安らぎもなく、さまざまの苦しみに会って、外には戦い、うちには恐れがありました。

7:6 しかし、気落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことによって、私たちを慰めてくださいました。

7:7 ただテトスが来たことばかりでなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、私たちは慰められたのです。あなたがたが私を慕っていること、嘆き悲しんでいること、また私に対して熱意を持っていてくれることを知らされて、私はますます喜びにあふれました。

パウロはコリント教会の人々からは援助をなるべく受けたくないと思っていたようです。彼らにその思いが足りなかったこと、また彼らが高慢にならなため、特に彼らの信仰がみこころにかなっていませんでしたので、彼らが「私たちはこれでよい。パウロ先生を支えている。」などと思い違いをしてはならないと考えたからでしょう。

それでもパウロは「あなたがたに対する信頼は大

きい」と明言しています。コリント教会の人々をパウロは長い目で見ているからです。これこそが本当の寛容ということです。私たちも同様です。神様から寛容に、そして期待を込めて見られていることを忘れないようにしましょう。

パウロの願いはコリント教会の人々が主のみこころに歩むことでした。それこそが幸いであり、平和な人生であり、苦難の中に勝利を勝ち取る道だからです。人を永遠に幸せにできる道を私たちは知っているのですから、幸いを他の人に与えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:8 あの手紙によってあなたがたを悲しませたけれども、私はそれを悔いていません。あの手紙がしばらくの間であったにしろあなたがたを悲しませたのを見て、悔いたけれども、

7:9 今は喜んでいます。あなたがたが悲しんだからではなく、あなたがたが悲しんで悔い改めたからです。あなたがたは神のみこころに添って悲しんだので、私たちのために何の害も受けなかったのです。

7:10 神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。

7:11 ご覧なさい。神のみこころに添ったその悲しみが、あなたがたのうちに、どれほどの熱心を起こさせたことでしょうか。また、弁明、憤り、恐れ、慕う心、熱意を起こさせ、処罰を断行させたことでしょうか。あの問題について、あなたがたは、自分たちがすべての点で潔白であることを証明したのです。

7:12 ですから、私はあなたがたに手紙を書きましたが、それは悪を行なった人のためでもなく、その被害者のためでもなくて、私たちに対するあなたがたの熱心が、神の御前に明らかにされるためであったのです。

7:13 こういうわけですから、私たちは慰めを受けました。この慰めの上にテトスの喜びが加わって、私たちはなおいっそう喜びました。テトスの心が、あなたがたすべてによって安らぎを与えられたからです。

7:14 私はテトスに、あなたがたのことを少しばかり誇りましたが、そのことで恥をかかず済みました。というのは、私たちがあなた

がたに語ったことがすべて真実であったように、テトスに対して誇ったことも真実となったからです。

7:15 彼は、あなたがたがみなよく言うことを聞き、恐れおののいて、自分を迎えてくれたことを思い出して、あなたがたへの愛情をますます深めています。

7:16 私は、あなたがたに全幅の信頼を寄せることができるのを喜んでいます。

パウロの手紙によって、コリント教会の人々は悔い改めて、神に逆らう人への「処罰を断行」しました。つまり教会を間違った方向に引っ張って行く人を放置しておいたことを、悔い改めたのです。

その結果、その間違った有力者も悔い改めました。教会は「潔白であることを証明した」のです。すなわち、コリント教会が主の教会であることを証明したわけです。パウロはその喜びを隠すことなく、そのままに語っています。

教会には、神のみこころに逆らうことを主張したり、行動したり、またそのような影響を与えたりする人が出現するものです。そのような人もその考えをも放置してはなりません。みこころに合っているか反しているかは、神のことばである聖書によって判断できますし、そうすべきです。

またそこまで影響力はなくても、“あれ、違うぞ。それは聖書にある神のみこころとはずれているぞ。”と感じるような言動に気づくこともあるでしょう。そのときも、「自分が面倒なことになるといやだな。」と、当たり障りなくやり過ごすのではなく、その人と教会のために、聖書のみこころについて教えてあげるべきです。

それはもちろん、自分自身がへりくだって、また愛と責任を持って、何よりも主に良く祈って聞きつつ行うべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





8:1 さて、兄弟たち。私たちは、マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思えます。

8:2 苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。

8:3 私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、

8:4 聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。

8:5 そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。

8:6 それで私たちは、テトスがすでにこの恵みのわざをあなたがたの間で始めていたのですから、それを完了させるよう彼に勧めたのです。

8:7 あなたがたは、すべてのことに、すなわち、信仰にも、ことばにも、知識にも、あらゆる熱心にも、私たちから出てあなたがたの間にある愛にも富んでいるように、この恵みのわざにも富むようになってください。

8:8 こうは言っても、私は命令するものではありません。ただ、他の人々の熱心さをもって、あなたがた自身の愛の真実を確かめたいのです。

8:9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

8:10 この献金のことについて、私の意見を述べましょう。それはあなたがたの益になることだからです。あなたがたは、このことを昨年から、他に先んじて行なっただけでなく、このことを他に先んじて願った人たちです。

8:11 ですから、今、それをし遂げなさい。喜んでしようと思ったのですから、持っている物で、それをし遂げることができるはずです。

8:12 もし熱意があるならば、持たない物によってではなく、持っている程度に応じて、それは受納されるのです。

8:13 私はこのことによって、他の人々には楽をさせ、あなたがたには苦勞をさせようとしているのではなく、平等を図っているのです。

8:14 今あなたがたの余裕が彼らの欠乏を補うなら、彼らの余裕もまた、あなたがたの欠乏を補うことになるのです。こうして、平等になるのです。

8:15 「多く集めた者も余るところがなく、少し集めた者も足りないところがなかった。」と書いてあるとおりです。

献金についての模範がコリント教会の人々に語られています。他教会の人と比べられて、「あつちはすばらしい」などと言われるのは面白くないものですが、コリント教会の人々はそのような小さなことにこだわらず、みこころを成したいと思ったのでしょうか。少なくともパウロは、そのようなコリント教会の人々であることを信じていたようです。

献金は「あなたがたの益になる」というように、神様からの祝福を受けられるものです。それだけでなく、教会を支えて立て上げるために必要です

から、自分たちの教会が自分たちを支えるようになるでしょう。

そのような献金は、「貧しさにもかかわらず」にするものです。主が与えてくださるからです。それは金額の多い少ないではなく「施す」という行為自体が「富」であり価値なのです。

また献金はいいやではなく「願って」ささげるものです。またそれは「真実の愛」が表れるものです。教会をまた教会の兄弟姉妹を愛しているがささげないということは有り得ません。その模範はイエス様であると、パウロは語っています。献金においても真実な信仰を表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだの部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？







8:16 私があなたがたのことを思うのと同じ熱心を、テトスの心にも与えてくださった神に感謝します。

8:17 彼は私の勧めを受け入れ、非常な熱意をもって、自分から進んであなたがたのところに行こうとしています。

8:18 また私たちは、テトスといっしょに、ひとりの兄弟を送ります。この人は、福音の働きによって、すべての教会で称賛されていますが、

8:19 そればかりでなく、彼は、この恵みのわざに携わっている私たちに同伴するよう諸教会の任命を受けたのです。私たちがこの働きをしているのは、主ご自身の栄光のため、また、私たちの誠意を示すためにほかなりません。

8:20 私たちは、この献金の取り扱いについて、だれからも非難されることがないように心がけています。

8:21 それは、主の御前ばかりでなく、人の前でも公明正大なことを示そうと考えているからです。

8:22 また、彼らといっしょに、もうひとりの兄弟を送ります。私たちはこの兄弟が多くのことについて熱心であることを、しばしば認めることができました。彼は今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心になっています。

8:23 テトスについて言えば、彼は私の仲間、あなたがたの間での私の同労者です。兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者、キリストの栄光です。

8:24 ですから、あなたがたの愛と、私たちが

あなたがたを誇りとしている証拠とを、諸教会の前で、彼らに示してほしいのです。

テトスは献金を携えてコリントに向かいました。それは当時のように盗賊や海賊が横行する時代においては、非常な危険を伴う役割でした。そればかりではなく、長い旅はそれ自体大変な犠牲を伴うものです。テトスはそれを「自分から進んで」したのです。主のため、教会のため、兄弟姉妹のために奉仕するに当たって、ある人々は「忙しい」「自分にはできない」「その余裕がない」などと言うこともありますが、問題は気持ちがあるかないかです。愛のある人は、出来る範囲であっても最善をつくそうとします。

パウロもまた自分の役割、特にコリント教会の人々を導くということに最善をつくそうとしています。同行する者が教会に受け入れられやすいように、それで彼の存在が教会の恵になるように。また献金に関しても、その扱い方が問題にならないようにして、教会に要らぬ混乱がないようにと配慮しています。

特に兄弟姉妹の新しい人間関係が始まるにあたって、「彼は今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心に」「私たちがあなたがたを誇りとしている」と証して、互いの存在が初めから信頼関係で結ばれるように導いています。

人の良いところを見て、互いが結ばれて教会が建て上げられる方向に向けてゆく…。それがクリスチャンの人間関係です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





9:1 聖徒たちのためのこの奉仕については、いまさら、あなたがたに書き送る必要はないでしょう。

9:2 私はあなたがたの熱意を知り、それについて、あなたがたのことをマケドニアの人々に誇って、アカヤでは昨年から準備が進められていると言ったのです。こうして、あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させました。

9:3 私が兄弟たちを送ることにしたのは、このほあい、私たちがあなたがたについて誇ったことがむだにならず、私が言っていたとおりに準備していてもうためです。

9:4 そうでないとも、もしマケドニアの人が私といっしょに行って、準備ができていないのを見たら、あなたがたはもちろんですが、私たちも、このことを確信していただけに、恥をかくことになるでしょう。

9:5 そこで私は、兄弟たちに勧めて、先にこちらに行かせ、前に約束したあなたがたの贈り物を前もって用意していただくことが必要だと思いました。どうか、この献金を、惜しみながらするのではなく、好意に満ちた贈り物として用意しておいてください。

9:6 私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。

9:7 ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。

9:8 神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるば

かり与えることのできる方です。

9:9 「この人は散らして、貧しい人々に与えた。その義は永遠にとどまる。」と書いてあるとおりです。

パウロは献金について述べます。献金はもちろんたくさんあれば力になりますが、最も大切なのは献金する者の心であり信仰です。教会は献金によって大いに前進しますが、それもささげる私たちの謙遜な信仰があればこそです。また神様から報いをいただくという、純粋に神様を見上げる信仰があればこそです。

パウロはコリント教会の人々にもその点で成長が必要と判断しました。しかし、彼は人々の良さを見つけて、それをほめるということを忘れません。それは単なる処方箋のような人間関係ではなく、神様が人と教会にどのように働いて来られたのかを知って、神様に感謝するためであり、人と教会を正しく導くためです。

献金はまず、「準備」しておくべきです。行き当たりばったりの献金では、主に心をささげたことになりません。主に感謝の祈りをささげつつ、備えておきましょう。

また献金は教会の光栄です。信仰が表れた善き献金でなければ、パウロたちが「恥をかく」ことになるでしょうが、逆に善き献金は光栄になるということです。

そして献金は「惜しみ」なくするものです。しぶしぶ、または人の様子を見ながら献金するのは、主に心からささげたことになりません。主は心をごらんになります。献金は主にささげるものです。主に喜んでもらいましょう。

「豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります」「神は喜んで与える人を愛してくださいます」というのは、真実であり事実です。そのような幸いな経験をたくさんさせていただきますように。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:10 蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。

9:11 あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。

9:12 なぜなら、この奉仕のわざは、聖徒たちの必要を十分に満たすばかりでなく、神への多くの感謝を通して、満ちあふれるようになるからです。

9:13 このわざを証拠として、彼らは、あなたがたがキリストの福音の告白に対して従順であり、彼らに、またすべての人々に惜しみなく与えていることを知って、神をあがめることでしょう。

9:14 また彼らは、あなたがたのために祈るとき、あなたがたに与えられた絶大な神の恵みのゆえに、あなたがたを慕うようになるのです。

9:15 ことばに表わせないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。

献金という奉仕は、与える側も受ける側も恵に満ち溢れるものです。ともに神様のためにささげ、神様のためにそれをを用いるからです。パウロは献金はそのような霊的な祝福であることを教えます。

「この人は散らして、貧しい人々に与えた。」というのはイエス様のことです。神の国の価値観では、この世と違い、たくさん集めて所有している者が称賛されたり羨ましがられたりするのではなく、たくさん散らして自分のためには所有していない人が、称賛され羨ましがられるのです。

「散らす」といっても無駄にするのではなく、「貧しい人に」とあるように、誰かの必要を満たす

ために与えるのです。そのような人に、神様は「種と食べるパンを備えてくださる」のですから、安心して与えたいと思います。

また献金は与えられる側にとっても、もちろん感謝なのですが、それは単に助かった儲けたという程度のことだけでなく、「神への感謝を生み出す」とパウロは言っています。それは「このわざを証拠として、…神をあがめることでしょう。」とあるように、与えた人々の信仰のすばらしさの証しとなるからです。

与えることにより、ささげることにより神様の恵みをいただき、神様への感謝を引き出し、神様があがめられるようにしたいものです。与える人には神様は「備えてふやして」くださいますから、さらに与えられてまた与えることができるようになります。それがクリスチャンの経済活動であり、財務計画であり、健全財政なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

